様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２１年　６月　１２日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2007～2008
課題番号：１９５２０４４３
研究課題名（和文）　行為指示型発話行為とその応答における配慮表現の体系的記述と日本語教育への応用
研究課題名（英文）　Systematic Description of Politeness Seen in Directives and Responses to Them – With Special Reference to Teaching Japanese as a Foreign Language

研究代表者
姫野　伴子（HIMENO TOMOKO）
明治大学・国際日本学部・教授
研究者番号：００２２８７５１

研究成果の概要：
日本語母語話者は、行為指示型発話行為の遂行にあたって、受益者、決定権者を判断して表現形式を選択しており、文体が変わっても、同じ発話行為に対しては同じ構造を持つ表現形式を適切と判断する。
他方、学習者には、①話し手受益場面において受益を表出しない、②敬語の依頼場面において聞き手に決定権を与えない、③勧め場面・勧誘場面において聞き手の意向を尊重しないという傾向があることが明らかになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	500,000	150,000	650,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：　言語学・日本語教育
キーワード：　①発話行為、②行為指示、③応答、④配慮表現、⑤受益者、⑥決定権者

１．研究開始当初の背景

日本語は対人配慮表現を豊富に持つ言語である。この性質は古くから注目されて多くの研究が行われてきた。発達した敬語体系を持つために敬語中心に研究される傾向があったが、近年、敬語だけが対人配慮を担っているわけではないという考え方が一般的になってきている。

さまざまな発話行為の中でも、話し手が聞き手の行動を求める行為指示型発話行為では、負担・利益、決定権に応じた適切な対人配慮が特に求められる。学習者がこれらを十分に習得していないために配慮に欠けると母語話者に判断され不利益を被ることのないよう、日本語教育を整備したいと考えた。

２．研究の目的

本研究の最終的な目的は、日本語学習者が適切な配慮表現を用いた行為指示型発話行為を行い、また応答できるように、日本語教育を整備することである。

具体的には、現代日本語における行為指示型表現およびその応答表現がどのような体系をなしているかを記述し、日本語母語話者と学習者がそれぞれについてどのような認識・理解を持っているかを調査して、その形式と機能を日本語教育でどのように扱うべきか検討しようとするものである。

本研究で扱う行為指示型発話行為とは、話し手が聞き手の行為を求めるものを言い、表１に示すように、受益者と決定権者の観点から、依頼・勧め・話し手利益指示・聞き手利益指示に分類される。これら４類型に加えて、聞き手が話し手とともに行動することを求める勧誘を研究対象とした。

表１　依頼・勧め・指示の分類

		決定権者	
		聞き手	話し手
受益者	話し手	依頼	話し手利益指示
	聞き手	勧め	聞き手利益指示

３．研究の方法

本研究は、以下の３種の方法によって実施した。

(1) 学習者および母語話者アンケート調査

学習者および日本語母語話者を対象として行為指示に関する適切性判断テスト・談話完成テストを実施した。適切性判断テスト結果の母語別平均値にｔ検定を実施し、日本語母語話者の認識と学習者の認識との相違点を分析した。

この調査・分析が本研究の中核をなす。

(2) 行為指示型表現の用例収集および分析

ドラマ、小説、脚本等の会話文から収集した行為指示型表現の用例を機能・文体・形式の面から分類・整理し、利益･負担や決定権への顧慮といった、日本語母語話者が用いる配慮表現の原理を考察した。

(3) 日本語教材調査

現在使用されている日本語教材における行為指示型発話行為の例文・解説等を調査し、上記（1）で明らかになった学習者の認識が、日本語教材の不備に起因していないか検証した。

４．研究成果

(1) 学習者および母語話者アンケート調査

アンケート調査は、日本の大学で学ぶ中上級～上級の日本語学習者 94 名（中国語母語話者（以下「中」）55 名、韓国・朝鮮語母語話者（以下「韓･朝」）39 名）と日本語母語話者の大学生（以下「日」）80 名を対象とし、2008 年 1 月から 6 月の間に実施した。

アンケートでは、依頼・勧め・話し手利益指示・聞き手利益指示・勧誘という 5 種類の行為指示型発話行為について、それぞれ①普通体、②非敬語の丁寧体、③敬語の丁寧体という 3 種の文体で行われる会話場面を設定し、その計 15 の場面において用いられる行為指示型の表現形式として提示した選択肢の適切性を問うとともに、それらの行為指示型発話行為に対する応答を自由に記述することで談話を完成するように求めた。

(1) -1　行為指示型の表現形式

行為指示型表現の選択肢として提示した形式は以下の表２～表４のとおりである。「勧誘」以外の発話行為については、選択肢は４種類で、a は聞き手の意向を尋ねずに直接的に聞き手行動を求める形式、b は話し手に恩恵がもたらされることを表現せずに聞き手の意向を否定形で尋ねる形式、c は話し

手受益を授受動詞で表現しつつ、聞き手の意向を否定形で尋ねる形式、d は意志形を用いた形式である。「勧誘」の選択肢は 3 種類で、a は意志形を用いた形式、b は「か」を付加した意志形の疑問形式、c は聞き手の意向を否定形で尋ねる形式である。

表２　普通体の選択肢

依頼･勧め・話し手利益指示・聞き手利益指示	a	～て
	b	～ない？
	c	～てくれない?
	d	～よう
勧誘	a	～よう
	b	～ようか
	c	～ない？

表３　非敬語の選択肢

依頼･勧め・話し手利益指示･聞き手利益指示	a	～てください
	b	～ませんか
	c	～てもらえませんか
	d	～ましょう
勧誘	a	～ましょう
	b	～ましょうか
	c	～ませんか

表４　敬語の選択肢

依頼・勧め・話し手利益指示･聞き手利益指示	a	お(ご)～ください
	b	お(ご) ～になりませんか
	c	～ていただけませんか
	d	お(ご)～ましょう
勧誘	a	～（敬語）ましょう
	b	～（敬語）ましょうか
	c	～（敬語）ませんか

「日」が各発話行為の各文体においてもっとも適切と判断した表現形式を表５に示す。

表５　「日」が最も適切と判断した表現形式

	普通体	非敬語	敬語
依頼	c	c	c
勧め	a	a	a
話し手利益指示	a、c	a	a
聞き手利益指示	a	a	a
勧誘	c	c	c

母語話者の適切性判断では、文体が変わっても、同じ発話行為に対しては同じ構造を持つ表現形式が適切とされている。日本語母語話者は、行為指示型発話行為の遂行にあたって、文体にかかわらず、誰が決定権を持つか、また誰が利益を得るかを判断して、用いるべき表現形式を選択していることがわかる。

特に、聞き手が決定権を持つ依頼と勧めにおいては、最適とされる表現形式がはっきりと異なっていることが特徴的である。依頼では話し手に恩恵がもたらされることを授受動詞で表現しつつ聞き手の意向を尋ねる形式 c が選ばれ、勧めでは聞き手の意向を尋ねずに直接的に聞き手行動を求める形式 a が選択されている。勧めは聞き手に利益をもたらす行為であることから、相手に断らせないようにする意図が働いていると考えられる。

他方、指示においては、話し手利益でも聞き手利益でも同じ形式が選択されている。これは、話し手が決定権を持つという性格上、依頼や勧めとは異なり、受益者がだれであるかに関心が払われないのだと言えよう。

各発話行為の選択肢に対する適切性判断平均値を「日」「中」「韓・朝」の母語別に集計し、t 検定（有意水準 5%）を行った結果は表６～表 10 に示すとおりである。学習者の回答が「日」より有意に高い項目には「**」を、有意に低い項目には「*」を付した。

学習者は、どの発話行為のどの文体についても「日」が最適とした表現形式に最高評価を下しており、習得が上級レベルまで進んでいると言えるが、最適とした項目以外については特徴的な違いも見出された。

表６　依頼

		日	中	韓・朝
普通	a	4.0	3.9	*3.2
	b	1.1	**1.9	**2.6
	c	4.5	4.3	4.6
	d	2.1	2.6	**3.1

非敬語	a	4.1	*3.0	*3.2
	b	1.1	**2.2	**2.4
	c	4.8	4.8	4.9
	d	1.2	1.5	1.5
敬語	a	1.4	**1.7	**2.4
	b	1.3	**2.7	**2.4
	c	4.9	4.9	4.8
	d	1.1	**1.4	1.2

学習者は、選択肢ｂを高く評価し、依頼において話し手受益を表現しなければならないという意識が「日」より希薄である。また、敬語を使用すべき聞き手に対して決定権を与えない形式である選択肢ａ「お～ください」を「日」より高く評価している。

表７　勧め

		日	中	韓・朝
普通	a	4.7	4.6	4.5
	b	3.5	3.1	**3.9
	c	1.8	1.6	1.6
	d	1.3	**2.6	**1.7
非敬語	a	4.9	4.9	4.8
	b	1.7	**2.1	1.7
	c	1.9	1.7	1.6
	d	2.4	**3.5	2.7
敬語	a	4.9	*4.5	*4.4
	b	3.2	3.2	3.5
	c	1.8	**2.2	2.1
	d	1.2	**1.9	1.5

「中」は勧めのすべての文体で選択肢ｄ（意志形）を有意に高く評価している。

表８　話し手利益指示

		日	中	韓・朝
普通	a	4.5	*4.1	*4.1
	b	1.7	1.7	**2.5
	c	4.5	*3.6	*3.9
	d	2.2	2.0	2.2
非敬語	a	4.7	4.8	4.6
	b	1.3	**1.7	**1.7
	c	4.1	3.8	4.1
	d	1.7	1.6	1.7
敬語	a	4.9	*4.5	4.7
	b	1.3	**2.3	**2.4
	c	3.1	**3.8	**3.9
	d	1.2	**1.8	1.5

学習者は、授受動詞のない選択肢ｂを「日」ほど不適切と判断していないことが目立つ。

表９　聞き手利益指示

		日	中	韓・朝
普通	a	4.8	*4.5	*4.4
	b	1.5	**1.9	**2.0
	c	3.7	3.2	3.7
	d	1.7	**3.0	1.8
非敬語	a	4.9	4.9	5.0
	b	1.2	1.2	1.4
	c	1.9	*1.5	*1.5
	d	3.4	*2.0	*2.0
敬語	a	4.9	4.8	4.9
	b	1.3	**2.1	**2.2
	c	3.5	**4.1	**4.3
	d	1.2	**1.5	1.3

学習者は聞き手に決定権を委ねる選択肢ｂを高く評価する傾向を見せる。これは、指示表現として違和感はあるが、依頼におけるよりは配慮的な問題が少ない。

表 10　勧誘

		日	中	韓・朝
普通	a	3.9	3.9	3.8
	b	3.1	**4.3	**3.9
	c	4.9	4.7	4.9
非敬語	a	3.4	*2.7	3.7
	b	1.5	**3.6	**2.4
	c	4.9	*4.4	*4.7
敬語	a	1.3	**2.3	1.7
	b	1.2	**3.2	**1.9
	c	4.9	*4.6	4.9

学習者は勧誘の全文体でｂ（意志形の疑問形）を「日」より有意に高く評価している。

調査結果からは、学習者に以下のような判断・認識の傾向があることが明らかになった。①話し手側に利益のある場面において、受益を表出しない。②敬語の依頼場面において、聞き手に決定権を与えない。③勧め場面・勧誘場面において、意志形を高く評価し、聞き手の意向を尊重しない。

今回の調査で、行為指示において意志形にかかわる問題が大きいことが明らかになった。意志形は１人称に用いるのが基本で、聞き手を包括的１人称複数に取り込むことによって勧誘表現として成立するのに対し、「～ませんか」はもともと２人称主語で用いられる文型である。日本語教育において、この点

を明示せずに両方を「勧誘表現」と一くくりにした扱いをしていることが学習者の誤解を招いているのではないかと考えられる。

敬語動詞の意志形（「＊いらっしゃいましょうか」等）の適切性を高く判断する傾向も見られた。意志形は1人称に用いるのが基本であることを理解していれば、敬語動詞が使用できないことも当然のこととして理解できるはずであるが、上級学習者でもこの点が十分認識されていないことが示された。

また、話し手が受益者である場合には、授受動詞を用いてそのことを明示する必要があり、敬語の依頼場面では聞き手に決定権を与える問いかけの形にすることが重要だが、学習者はそのような意識が希薄である。

(1) -2　行為指示型表現への応答

応答の自由記述では、いずれの発話行為においても、「日」「中」「韓・朝」の間で目立った差は観察されず、文体にかかわらず、依頼に対しては許諾（「いいよ」等）、勧めには感謝（「ありがとう」等）、指示には受入れ（「わかりました」等）、勧誘には願望表明（「行きたい」等）または許諾（「いいよ」等）が選ばれた。

但し、勧誘に対して「日」は願望表明で答えることが比較的多いのに対し、学習者は許諾のみで応答する傾向が見られた。

(2) 行為指示型表現の用例収集および分析

ドラマ・小説・脚本等の会話文から行為指示型表現の用例を1530例収集し、発話行為の型・文体・形式によって分類した結果を以下の表11～表14に示す（空欄は用例なし）。(1) のアンケート調査において、指示に関しては話し手利益でも聞き手利益でも母語話者の判断に同様の傾向が観察されたので、一括して「指示」とする。

表11　依頼（529例）

	敬語	非敬語	普通
希望表明系	5 (17.9%)	7 (8.5%)	7 (1.7%)
意向質問系	10 (35.7%)	4 (4.9%)	51 (12.2%)
命令禁止系	3 (10.7%)	55 (67.0%)	332 (79.2%)
当為判断系		1 (1.2%)	4 (1.0%)
意志表明系		1 (1.2%)	5 (1.2%)
遂行動詞	7 (25.0%)	10 (12.2%)	16 (3.8%)
その他	3 (10.7%)	4 (4.9%)	4 (1.0%)
計	28 (100%)	82 (100%)	419 (100%)

表12　勧め（506例）

	敬語	非敬語	普通
希望表明系			
意向質問系	8 (13.8%)	3 (5.9%)	28 (7.1%)
命令禁止系	32 (55.2%)	33 (64.7%)	228 (57.4%)
当為判断系	9 (15.5%)	10 (19.6%)	117 (29.5%)
意志表明系			3 (0.8%)
遂行動詞			
その他	9 (15.5%)	5 (9.8%)	21 (5.3%)
計	58 (100%)	51 (100%)	397 (100%)

表13　指示（254例）

	敬語	非敬語	普通
希望表明系			
意向質問系			3 (1.4%)
命令禁止系	7 (100%)	27 (87.1%)	124 (57.4%)
当為判断系	0	3 (9.7%)	84 (38.9%)
意志表明系	0		1 (0.5%)
遂行動詞	0	1 (3.2%)	1 (0.5%)
その他	0		3 (1.4%)
計	7 (100%)	31 (100%)	216 (100%)

表14　勧誘（241例）

	敬語	非敬語	普通

希望表明系	0	0	1 (0.6%)
意向質問系	0	12 (21.4%)	29 (16.3%)
命令禁止系	0	0	0
当為判断系	0	1 (1.8%)	1 (0.6%)
意志表明系	6 (85.7%)	41 (73.2%)	143 (80.3%)
遂行動詞	0	0	0
その他	1 (14.3%)	2 (3.6%)	4 (2.2%)
計	7 (100%)	56 (100%)	178 (100%)

基本的に、いずれの発話行為においても、文体の違いにかかわらず同じ形式が用いられる傾向が見られ、好まれる形式はアンケート調査で母語話者によって適切性が高いと判断された形式である。

但し、シナリオ等のデータにおいては、依頼の非敬語・普通体で命令禁止系が最多で、勧誘ではいずれの文体でも意志表明系が最も多く使用されている点、(1) の母語話者アンケート結果と異なる。これは、シナリオ等ではアンケートにおける設定よりもさらに近しい人間関係で会話が行われる場合が多いためではないかと考えられる。

(3) 日本語教材調査

アンケート調査で明らかになった学習困難点を中心に、現在使用されている日本語教材における行為指示型発話行為の例文・解説等を調査した。その結果、「ましょう」は紹介されていても「ましょうか」への言及がないケース（『現代実用日語（基礎編）１』高等教育出版社、p.115、『新大学日本語第１冊』大連理工大学出版社、p.115 等）のほか、以下のような不適切な行為指示型表現の例文・解説が観察された。

①「『お＋動詞の連用形＋ください』は相手に対する依頼を表す」と説明し、「ここにお名前をお書きください。」という指示文と「どうぞおふろにお入りください。」という勧め文が、例文として同様に提示される。(『新編基礎日語修訂版』第１冊、上海訳文出版社、pp.124-125)

②「『…ませんか』と『ましょうか』は基本的に同じで、相手の意見を礼儀正しく求めるもの」であると解説する。(『新編日語１』、上海外語教育出版社、p.310)

③「ましょうか」は「『ましょう』より語気が婉曲で、自分と一緒にあることをするよう人に勧めるのに使われる。」と解説する。(『新編基礎日語修訂版』第１冊、上海訳文出版社、p.125)

以上のような例文・解説が学習者の認識に影響している可能性は高い。今後、提出する例文や会話文を吟味し、その会話参加者の人間関係を分かりやすく提示するとともに、適切な解説を付すなど、日本語教育をさらに整備し、形式だけでなく機能にも目配りの行き届いた新たな教育を目指したい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）

<u>姫野伴子</u>「行為指示型表現に対する母語話者と学習者の適切性判断」、明治大学『国際日本学研究』第１巻第１号、査読無、2009、pp.57－73

〔学会発表〕（計　１件）

<u>姫野伴子</u>「行為指示型表現の適切性に対する学習者の理解」、2008 年度日本語教育学会秋季大会、2008 年 10 月 12 日、山形大学

６．研究組織

(1)研究代表者

姫野　伴子（HIMENO TOMOKO）

明治大学・国際日本学部・教授

研究者番号：　００２２８７５１

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし